

のらぼう



【事務局】

住所：川崎市多摩区菅城下28-1
電話番号：044-944-8002
(川崎市立菅中学校内)

発行責任者／羽鳥祥子
編集責任者／國分朋子
編集発行／広報委員会

2023年度

菅中学校区地域教育会議

活動報告号

子どもも大人も 繋がろう！

私たち**菅中学校区地域教育会議**は、「菅小学校」と「菅中学校」の学区域を対象に活動を行っています。菅中学校区域(地図の枠内)の「町内会・子ども会・青少年指導員等の地域住民」「小中学校の教職員・保護者」など、様々なメンバーから構成されており、川崎市教育委員会が市内全中学校区、行政区に委託・推進している組織です。



2023年度 活動報告

- 5月 総会
- 9月 「子ども会議」委員会 世界の子どもの権利かるた大会
- 10月 「子ども会議」委員会 第1回ディスカッション型子ども会議
- 11月 第1回ネットワーク会議「なんでやねん！すごろく」実施とグループ討議
- 12月 「子ども会議」委員会 体験型子ども会議「冬フェスタ」
- 1月 「教育を語るつどい」委員会 イベント「子どもをほめるとは」
- 2月 「子ども会議」委員会 第2回ディスカッション型子ども会議
- 3月 第2回ネットワーク会議 活動振り返りとグループ討議



2023年度総会の様子

議長挨拶

菅中学校区地域教育会議 議長 羽鳥祥子



2023年度は5月にコロナが5類感染症に移行し、いよいよ活動がやりやすく、活気付いた年になりました。「子ども会議」委員会は子どもの権利を学べるかるたやすごろくを利用した会議を3回実施、また恒例の「冬フェスタ」はコロナ前のフルバージョンで多くの子どもたちが参加し、盛り上がりました。「教育を語るつどい」委員会でも、「21世紀の川崎の教育を創造する研究会(21研)」でテーマになった「ウェルビーイングとは何か」を学ぶ時間やグループディスカッションが企画され、他中学校区の方にもご参加いただき、「これまでの教育」と「発想力・創造する力を培う教育」について考えました。そして「地域教育会議」の意義や役割にまで話が及び、参加して下さった地域の方が住民委員に手を挙げてくださるなど、印象に残る活動となりました。

また、2023年度は菅小・菅中両校ともコミュニティスクールになった年でした。議長として両校の学校運営協議会メンバーに選出していただき、学校の現状、課題などを一緒に考え、地域で協力できることを具体的に提案・遂行まで運べたことは、学校と地域教育会議の信頼関係の強さを再認識でき、地域教育会議と学校運営協議会のさらなる連携の可能性を感じることができました。それも一重に参加して下さった地域、学校教職員、保護者の皆様、それからメンバーのみなさんのご理解ご協力の賜物と存じます。2023年度も本当にありがとうございました。

◆2023年度菅中学校区地域教育会議メンバー◆

＜役員＞

- ◇議長 / 羽鳥祥子
- ◇副議長 / 香取勝喜・花村勝巳・山本勇樹・善岡憲治
- ◇会計 / 鈴木和美
- ◇会計監査 / 今泉 進・衛守 剛
- ◇事務局長 / 木村 徹

役員メンバーは総会・ネットワーク会議の企画・運営を行い、川崎市の代表者会議や行政区の交流会に参加し、他校区、行政区との情報交換、また行政区や市全体への意見、問題提起などを発信しています。

協同・共同

共に連携しあい、
地域教育力の向上を目指して
菅中学校区の
子育てや生涯学習を考えます

「子ども会議」委員会

「ディスカッション型子ども会議」と「体験型子ども会議」を企画・実行しております。「ディスカッション型」は中学生を主体とした話し合い、「体験型」は競技を通じて異学年との交流を深める「冬フェスタ（ミニ運動会）」です。



- ＜委員長＞ 米山正洋 (住民委員)
- ＜副委員長＞ 香取勝喜 (住民委員)
- ＜会計＞ 藤井奈美 (住民委員)
- ＜メンバー＞ 木村 徹 (住民委員)
- 中原博明 (住民委員)
- 西山てる子 (住民委員)
- 加藤伸吾 (菅中教員)
- 後藤 壮 (菅中教員)
- 吉岡久美子 (菅小教員)
- 衛守 剛 (菅小PTA会長)
- 佐々木由果 (菅中PTA)
- 五嶋位昌 (菅子ども部会)
- 山根利子 (青少年指導員)
- 尾形 隆 (スポーツ推進委員)
- 西山ゆみ (スポーツ推進委員)
- 崎間憲一 (菅第一地区民児協)

「教育を語るつどい」委員会

大人が中心となって地域を知り、意見交換や話し合いで地域の交流となる企画をします。



- ＜委員長＞ 花村勝巳 (菅中PTA会長)
- ＜副委員長＞ 鹿島 智 (住民委員)
- ＜会計＞ 柴田貴章 (菅子ども部会)
- ＜メンバー＞ 梅垣美香 (住民委員)
- 高森康広 (住民委員)
- 深澤孝文 (住民委員)
- 篠崎吉夫 (住民委員)
- 前田竜彦 (住民委員)
- 蒲澤陽子 (菅中教員)
- 佐々木里佳 (菅中教務主任)
- 望月美和子 (菅小教員)
- 中崎明那 (菅小PTA)
- 藤谷博充 (菅中PTA)
- 田中千恵子 (菅第一地区民児協)

様々な関連団体から構成されています

住民委員・菅中学校・菅小学校・菅保育園
菅こども文化センター・保護司・菅中菅小PTA
菅町会・菅子ども部会・青少年指導員
スポーツ推進委員・菅第一地区民児協

【オブザーバー団体】

- 菅小学校わくわくプラザ
 - 愛児園学童ホール
- 菅小学校・寺子屋「菅人(すげんちゆ)」運営委員会
- 菅中学校・寺子屋菅中実行委員会

菅中学校区地域教育会議の構成員は、学校長・こ文館長などの**非選出委員**と学校教職員・PTA・子ども部会・菅第一地区民児協などの**選出委員**、活動の要となる**住民委員**で構成されています。また、オブザーバー団体もネットワーク会議に参加します。

環境委員会

地域で子どもたちを健全に育成するために、世の中の動き、社会的問題を踏まえて、菅の環境について話し合います。



- | | | |
|--------|-------|------------|
| <委員長> | 善岡憲治 | (住民委員) |
| <副委員長> | 〃 | |
| <会計> | 〃 | |
| <メンバー> | 羽鳥祥子 | (住民委員) |
| | 田島清隆 | (住民委員) |
| | 鈴木健一 | (住民委員) |
| | 竹内和則 | (菅中校長) |
| | 橋本慎一 | (菅中教頭) |
| | 戸塚裕康 | (菅小校長) |
| | 相川 仁 | (菅小教頭) |
| | 和田淳二 | (菅こ文館長) |
| | 須藤亜弥子 | (菅保育園) |
| | 平山方夫 | (保護司) |
| | 西山 昇 | (菅町会) |
| | 中田英徳 | (青少年指導員) |
| | 大澤深雪 | (菅第一地区民児協) |

広報委員会

地域教育会議の活動を広くお知らせするため、広報紙「のらぼう」の編集・発行をします。



- | | | |
|--------|-------|----------|
| <委員長> | 國分朋子 | (住民委員) |
| <副委員長> | 今泉 進 | (住民委員) |
| <会計> | 鈴木和美 | (住民委員) |
| <メンバー> | 山本勇樹 | (住民委員) |
| | 品川征忠 | (菅中教員) |
| | 鈴木こずえ | (菅小教務主任) |
| | 森田 俊 | (菅小PTA) |



「子ども会議」委員会

委員長 米山正洋

令和5年度は**子どもの権利**についてフォーカスして会議を進めてきました。

通常のディスカッション型子ども会議に加えて新たに子どもの権利かるた会も実施し、低学年の子どもから楽しく参加出来る機会を作れたと思います。会議の前に『**子どもの権利かるた**』や『**なんでやねん！すごろく**』をした事が話のきっかけとなり、**活発な議論**を交わす事が出来ました。

冬フェスタでは残念ながら中学生の参加者が0名となってしまいましたが、小学生同士でもそれぞれ作戦を立てたり話し合ったりと、盛り上がって楽しんでいる姿を見る事が出来ました。今後は中学生の参加者が増えるにはどうしたらいいか？と言う点を課題としながらも更に楽しいイベントになるようメンバーと共に話し合い活動していきたいと思います。皆様、今後ともご協力の程宜しくお願いいたします。



ディスカッション型子ども会議

日時：2023年10月26日(木)

会場：菅小学校図書室

参加者：小学生3名、中学生20名、大人スタッフ13名

テーマ：「世界の子ども権利かるた大会」かるたで学ぼう子どもの権利

菅小学校図書室に小中学生が集まり、「**世界の子ども権利かるた**」をグループに分かれて体験し、様々な意見交換をしました。参加者は子どもの権利についての感想や、かるた札の中でどんな権利に興味を湧いたのか、かるたを通して学校や普段の生活の中で感じることにについて、互いの意見や自分の考えを述べました。

グループ討議の発表では、自分たちが楽しく暮らせて食べられて住む場所があるというのが当たり前ではないと気付いたという意見や、自分の気持ちや考えを伝えられてとても良かった、子どもってこんなに権利に守られているんだと知った、かるたにあった「たすけて」を求めることは大切なことだと気づいた、といった様々な意見が出ました。

読み札に書かれた普段なかなか知ることのできない世界の子どもたちの状況や、また、子どもたち自身が**子どもの権利について知り理解を深める**ことで、**自身で悩みを解決したり、社会をより良いものにしようとする意見や考えを持つ**ことにもつながったことでしょう。



子ども会議では色々な人と協力して問題を解決することに前向きになれる。ぜひ参加してみてください！

日時：2024年2月7日(水)

会場：菅小学校特活室

参加者：小学生5名、中学生22名、大人スタッフ8名

テーマ：「身の回りのなんでやねん」

「なんでやねん！すごろく」は「子どもの権利条約関西ネットワーク (<https://kodomonokenrikansai.wixsite.com/network>)」さんが子どもと一緒に作成した子どもの権利条約を学べるすごろくです。



第2回子ども会議では「**なんでやねん！すごろく**」を体験し、「身の回りのなんでやねん」と感じる様々なことについて子ども会議が行われました。このすごろくでは子どもの持つ権利について楽しく知り、感じたこと考えたことを共有しながら、子どもたち自身も自分たちに何が出来るかを考えることができます。子どもたちはなんでやねんカードを使いながら模擬会議を行ったのち各グループに分かれ、身の回りの「なんでやねん！」と感じることについて本会議、グループ発表を行いました。

グループ討議では、

- ・スマホのルールについて
- ・親の弟妹への態度の違いや兄弟で比べられること
- ・大人や先生が決めたことに口出しできないこと
- ・大人は好きな時間に帰ってくるのに子どもは門限があつてとても厳しい

など、子どもたちが疑問や違和感を感じていること、色々な意見が出ました。子どもたちが感じている色々な「制限」についても、それを決めた大人の立場や言い分について疑問に思うことについてみな真剣に話し合い、なぜそのルールがあるのか、制限があるのか、**議長を中心に各グループ盛んな意見交換**とともに深堀する時間となりました。

心の幸福度について、**子どもにも社会の色々なことに意見する権利、参加する権利、子どもたちが感じることや子どもの事情を大人も想像し寄り添い、子どもと一緒に考えること**の大切さを学ぶことも必要なのかもしれません。



体験型子ども会議

「冬フェスタ」

2014年「菅グランプリ」の名前ではじまった体験型子ども会議「冬フェスタ」は、昨年度の春フェスタを入れて今回で第8回目となりました。集まった小学生を学年を混ぜた7グループにし、グループ対抗で6つの競技を行い競技上の順位とチームワークを競います。異学年同士で声をかけあい、誰でもできる競技を通じて協力や交流を深めるものとなっています。また、審判は地域の大人、学校教員が行い、参加した子どもたちは地域交流、異学年交流、初対面同士の意見交換の経験も兼ねます。

日時：2023年12月9日(土)
会場：菅小学校体育館
参加者：小学生76名、大人スタッフ30名
テーマ：冬フェスタ（ミニ運動会）



グループに分かれ、まずは仲良くなろう！

異学年ミックスのグループに分かれ、まずはお互いに自己紹介をします。今年は小学生のみの参加でしたが、5・6年生が上手にリードしていきます。はじめはぎこちない低学年の子どもたちも高学年のお兄さんお姉さん、周りでそっと声掛けする大人たちに見守られ、すこしずつ緊張もほぐれていきます。チーム対抗競技についてルールをみんなで確認したり順番やコツなども話し合ったりしながらワイワイと作戦会議していきます。

楽しく競技♪競技にはチームワークと声掛けが大切！

リーダーを中心に協力し合い、6つの競技を順番に進めていきます。

- ★ブラインドサッカーPK
- ★玉入れ
- ★ペットボトルボウリング
- ★ふわふわフリースロー
- ★走れジョン
- ★パイプライン

各競技の採点する大人スタッフは得点数だけではなく、見守りながらチームの声掛けや団結の様子なども見ていきます。はじめは進め方や競技の順番に戸惑う低学年もいましたが、高学年がルールをわかりやすく説明してあげたりチーム内の雰囲気盛り上げる言葉かけをしたりチームを引っ張っていく様子も見られ、一緒にチームを盛り上げ声を掛け合うことで学年を超えた繋がりや交流がうまれていました。最後は先生チームも参加し、一斉に「高さで勝負力プラ積み」で全競技が終了しました。



競技を通して仲良くなったみんなで、菅のまちについて話し合おう！

チーム戦を終えて仲良くなったあとは、各グループごとにミニ会議が行われました。「菅の町でからだを動かして遊べるところ」「遊んでいるときに家族以外の大人から怒られたことがあるか」をテーマに意見交換をしていきます。グループ発表では子どもの目線から見える「菅の町の遊び場事情」がうかがえる意見がたくさん出ました。



終わった後は、スタッフも振り返りの会

冬フェスタ終了後、地域教育会議メンバー、教職員、行政区地域教育会議からの参加者も交え、振り返りの意見交流会が行われました。

- ・小さい子も含め高学年を中心に作戦会議している一面が見られて嬉しかった。
- ・20年以上前に学校内でも縦割り・異学年交流に力を入れていた時代があったが、学習の内容が増えるにつれてそういう時間が取れなくなってしまっている、今日はその貴重な異学年交流が出来て、子どもたちにとっても見守る大人たちにも良かった。
- ・失敗することも悔しい思いをすることも、子どもたちに必要な経験。きっかけ作りや経験の場、機会を作ることを、こうして地域と先生方と保護者の皆さんで作っていただけたいと思う、など様々な感想が述べられ、イベントの手ごたえを感じるとともに次回に向けた前向きな話し合いがされました。



「教育を語るつどい」委員会

委員長 花村 勝巳

昨年度に続き対面開催となった教育を語るつどい。

今回は、子どもがやる気になった！「子どもをほめる」とは。のタイトルで、寺子屋先生の体験談とウェルビーイングとは？のパネルディスカッションの後、参加者を少人数のグループに分けて意見交換を実施いたしました。「語るつどい」ですので、話をただ聞くだけでなく、自分の意見を声に出してもらおう。また他の人の意見を聞き、見識を広げてもらうというコンセプトは昨年度に引き続きです。

イベント終了後のアンケートからは、パネリストの話をつきかけに、子どもたちや地域、特に「居場所」を考えるきっかけになった。この場で出会った人たちと意見交換することで視点が広がったり、見識を深めることができた。という意見が多く寄せられ、参加者には今回の目的は伝わったと思い、成果はあったものと考えます。今後も地域教育を考えるきっかけをつくる場を提供していきたいと思っております。



テーマ：「子どもをほめる」とは
みんなが幸せになるために

日時：2024年1月20日(土)
場所：菅中学校体育館
参加者：38名

1/20 (土) 菅中学校体育館にて、「子どもをほめるとは」をテーマに「教育を語るつどい」委員会のイベントが開催されました。

前半では、当会議議長羽鳥さんが進行役となり、菅小学校図書室にて毎週水曜日に行われている放課後学習支援・寺子屋「すげんちゅ」で先生として「子どもをほめる」を実践して活躍している服部さんと田頭さんから体験談を交えてお話を伺いました。今年で6年目を迎える菅小寺子屋事業は現在登録数15名の先生方で運営されており、スライドを見ながらこれまでの活動の歩みや子どもたちとの接し方の工夫や関係づくりについて学びました。



寺子屋「すげんちゅ」の先生方

寺子屋「すげんちゅ」では、毎回終了後に先生方の振り返りの会（反省会）を実施し、それぞれの子どもたちの素晴らしい面、関心した面を共有します。子どものありのままの良さや凄さを大人自身も言葉にして伝える大事さをお互いに意識し、さまざまな試行錯誤をしながら子どもたちにとっての寺子屋の意義を模索しているそうです。活動を重ねていくうちに次第に寺子屋に来る子どもたちから「ただいま〜!」、そして先生たちも「おかえり〜!」といったやり取りが生まれるようになったそうで、子どもたちにも大人にも温かく安心できる場所、顔の見える地域の関係づくりの機会の場になるよう、幸せな状態をこれからもみんなで考え模索し、持続していきたいとの話がありました。

その後、今回のテーマである「子どもをほめる」ことに繋がる「ウェルビーイング」について、スライドを見ながら現状や定義や環境作りを学びました。語るつどい委員の高森さんが進行役となり、羽鳥さんとディスカッション形式でウェルビーイングについてインタビューを受け答えしながら進んでいきました。

今後教育の現場にもウェルビーイングが採用されていくことになるなどの話もあり、「非地位財的な幸せ」について4つの「幸せ因子」も語られました。

個人的な幸せだけでなく、他者との関係や利他性等を含む、より包括的な社会全体の幸福的な状態の持続と安定の概念とは何か、あるがままの自分や周りを互いに受け入れて生まれる前向きな心の安心、さまざまな考え方や価値観に触れること、また相互に感謝できる社会について、参加者は理解を深めました。

後半では、参加者は6つのグループに分かれて、自己紹介とともに「ご自身が感じたウェルビーイングな状態」をテーマに、各自の体験談などを交えてグループ討議が行われました。

【当日の内容】

- ◆ 寺子屋先生の体験談
- ◆ ウェルビーイングとは
- ◆ みんなで楽しく語り合おう (グループ討議)



「地位財」とは お金そのもの、社会的地位、モノ(車など)
「非地位財」とは 健康、自主性、自由、愛情など

ウェルビーイング
Well-being とは

心身ともに健康で幸福な状態

ウェルビーイング(Well-being)は、「心身ともに健康で幸福な状態」を示す教育用語です。幸せで、肉体的にも精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいい、教育においても、世界的に非常に重視されている考え方です。ウェルビーイング教育は、学力に加えて物事に対するマインドセットや意欲など、自己形成において内面的な力を育むことが大事と考えられています。





羽鳥議長



寺子屋「すげんちゅ」から
田頭さん（左）と服部さん（右）



花村委員長

子どもも親も
経験は同い年。
失敗もあるよね。



大人の経験が邪魔を
するときもある。



グループ討議の様子

幸せの連鎖反応を
作っていくには？



手伝ってもらった時に
感謝を伝えている。
有難うという言葉は互
いに嬉しい気持ちに。



6グループに
分かれて
語り合う



各グループの発表に耳を傾ける



参加後のアンケートでは、

- ・初めて参加したがウェルビーイングのこと、寺子屋のことを知るきっかけになり勉強になった。
- ・大人も子どもも自分の居場所を感じられる環境はとても大切、子どもが安心して自分を出せる関係や場所が増えてほしい。
- ・ほめること、話を聞いてあげることが大事だと改めて感じた、自分にできる小さなことをやり続けることが、小さな幸せにつながるのでは。
- ・教員として昔の子どもたちと関わりあう中でこれからも子どもたちとともに考え、悩みながら一緒に成長していきたい。
- ・人それぞれの意見を聞くことが出来て幸せな時間でした。

などたくさんの感想が寄せられ、参加者それぞれに幸せの考え方やあり方について考えるきっかけや気づきになったようでした。また、お互いの意見に耳を傾けることで対話や交流について有意義に感じるとともに、さまざまな価値観や考え方の出会いに触れ、ポジティブに活動する前向きな時間になったのではないのでしょうか。

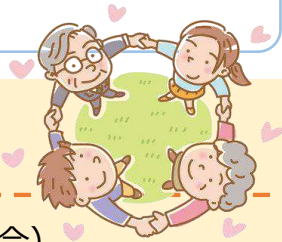
環境委員会

委員長 善岡 憲治

令和5年度環境委員会は、様々なテーマを準備させていただき、委員各専門職の方々とディスカッション型会議を2023年9月20日（水）に開催させていただきました。専門職からのレベルの高い意見、また個人的目線での本音の意見を発言していただいたりと、有意義な情報交換の場となりました。【子ども】の【生活・学校・家庭・地域・社会】様々な環境が変化している中、

【大人】として、どの様に向き合っていくかの【気付きの場】にもなったのではないのでしょうか。見えない人との対話ではなく、互いを知った上での【本音で話しあえる情報交換の場】が環境委員会として今後も開催できたらと思う所存です。

地域の皆様、令和5年度も活動にご理解ご協力を賜りありがとうございました。



菅中学校区地域教育会議その他の活動

2023年
9月28日
(木)

「かるたで学ぼう！子どもの権利」（主催：「子ども会議」委員会）
9月28日菅小特活室に小学生が集まり、「世界の子どもの権利かるた大会」が行われました。



2023年
10月28日
(土)

菅小学校 「すげフェス」にて、イベント「逃走中」の司会・タイムキーパーなどのスタッフとして参加しました。



2024年
3月30日
(土)

「菅子ども会祭り」（主催：菅子ども部会）に参加しました！

菅中学校区地域教育会議ブース

若人の主張 ～自分の力で発する力を身につけよう～

日頃お世話になっている子ども会や地域の方々、家族への感謝や意見・疑問など自分の思いや伝えたいことを大勢の人の前で発表する企画ブース



2023年度は2回のネットワーク会議が開催されました!!

菅中学校区地域教育会議のネットワーク会議のグループ討議では**全員参加型、必ず参加者全員が発言します。**他の考えや意見にも耳を傾け互いに理解しようと参加することにより、地域の様々な事柄や問題に対して自分事として考え意見を持ち委員同士の交流を深めるきっかけになります。「**学びあう場・所属の委員会を超えて語り合う場**」として、**大切な位置づけ**となっています。

第1回

「なんでやねん！すごろく」をやってみよう！

■2023年11月17日(金) 18時半～ ■会場：菅中学校図書室 ■参加者：35名

第1回ネットワーク会議では、「**なんでやねん！すごろく**」を実際にみんなで体験し、すごろくを通じて**子どもの権利**を知識として学ぶだけでなく、権利の侵害や今の子どもたちが疑問に感じている制限やルール、抱えている問題、大人たちはそれをちゃんと理解し寄り添うことができているのか、やってみて感じたことなどみんなで意見交換し考えました。

- ①すごろくをやってみて感想は？どんな発見がありましたか？
- ②子どもの権利について考えるきっかけになりましたか？
- ③気になったこと、話したいこと、聞きたいことなんでも！

グループに分かれ一人ずつ順に①～③について発言していき、各グループごとファシリテーターを中心に様々な意見交換がされました。権利は自分だけにではなく、相手にも、子どもにもある。相手の権利を尊重することで良いコミュニケーションが生まれるのではなど、それぞれの立場で**いろいろな視点からの活発な意見交換**が交わされ、みな自由に話ができる時間となり、大変有意義な時間となりました。

「なんでやねん！すごろく」は「子どもの権利条約 関西ネットワーク (<https://kodomonokenrikansai.wixsite.com/network>)」さんが子どもと一緒に作成した子どもの権利条約を学べるすごろくです。ルールは普通のすごろくと同じく、さいころを振ってマスを進み、ゴールを目指します。



第2回

「地域で学校のためにできることを考えよう」

■2024年3月21日(木) 18時半～ ■会場：菅中学校図書室 ■参加者：34名

第2回ネットワーク会議では、1年間の各委員会活動をスライドで振り返るとともに、菅中学校区地域教育会議がコミュニティスクールになって1年を迎えるにあたり、これからの**地域教育会議の在り方**や姿について**地域で学校にできること**について、6つのグループに分かれグループ討議が行われました。





地域教育会議ってなあに？



1980年代、校内暴力で荒れる学校や少年による事件が多発し、川崎でも深刻な事件が起き、教育の危機が指摘されました。そこで川崎市では、市内の全小学校を会場に教育集会を開催。242か所、参加者延べ4万人から出された6,500件の意見をもとに、地域からの教育改革をめざして「**地域教育会議**」が提案されました。1990年に3つの中学校区で試行設置され、1998年には51の中学校区、7つの行政区すべてに設置されました。また管中学校区地域会議は1992年に設置されました。



地域と学校、行政が共に協力して子どもがいきいき育つまちを作ろうというものです。そして、おとなも楽しく学べるまち、ひいてはあらゆる人々が共に生きる地域社会を目指します。

委員構成

子どもに関わる機関団体と住民委員が緩やかなネットワークを活かして活動します。



主な活動

会の運営では話し合いを大切にしています。そこでの合意形成が様々な取組を生みだします。具体的な取組としては「教育を語るつどい」と「子ども会議」の開催があります。その他の活動はそれぞれの会で創意工夫されて行われていて、管中学校区では環境委員会、広報委員会も活動しています。また、地域からの教育改革をめざすこの会の重要な活動として、学校や行政への提言があります。



子ども会議の開催

地域教育会議の活動の中で大きなウェイトを占めてきたのが子ども会議です。川崎市が2001年に施行した「子どもの権利条例」の趣旨に基づいて行われています。

※子ども会議ホームページ「川崎市 子ども会議」で検索



私たち「**菅中学校区地域教育会議**」は、菅の地域に根付いた「生きる力」を育む取り組みと活動を行っております。「地域」「教育」「子ども」をキーワードに、子ども世代だけでなく大人も共に学び、話し合い、コミュニティー全体の豊かさを創造していきたいと考えています。



菅中学校区地域教育会議
初代議長 故・高橋孝次さん



守り守られる安全安心なまちを目指す活動

生きがいがたくさんあるまち、共に生きる地域社会を作る活動

多世代のふれあいで、人と人とのつながりの豊かな地域社会を目指す活動

菅中学校区地域教育会議では**4**つの委員会を設置し、各委員会の活動をもとに様々な情報交換と意見交換を図っています。

「子ども会議」委員会



小学生・中学生による「体験型」と「ディスカッション型」の会議を企画・開催します。

子どもや地域を取り巻く問題についての意見交換・交流をします。

「教育を語るつどい」委員会



環境委員会



地域で子どもたちを健全に育成するために菅中学校区の「環境整備」について意見交換・交流・企画・開催します。

広報紙「のらぼう」発行をはじめ、菅中学校区地域教育会議の広報を担います。

広報委員会



一緒に活動しませんか？

「住民委員」を募集しています！

学校・地域・親・住民、様々な立場の人と一緒に、菅のことについて意見交換・活動してみませんか？



川崎市内の「7つの行政区」と「51の中学校区」すべてに地域教育会議があり、教育の社会化、地域の教育力向上、行政の市民化を理念としています。私たち「菅中学校区地域教育会議」は、次のような目的で活動します。

- 中学校区の子育て、住民自らの生涯学習について、親・教師・住民の話し合いにより、合意を作り出し、そのネットワーク化を図ります。
- 教育行政への学区内住民の総意を反映させるため、日常生活圏に根ざした教育への市民参加の恒常化を図ります。
- 地域教育振興・発展のために活動する諸団体と連携・協力するとともに、自主独立の団体として地域の教育改革を図ります。

※活動を進めるうえで、広く住民委員を随時募集しています。
任期は1期2年です。

活動している4つの委員会

- ・「教育を語るつどい」委員会
- ・「子ども会議」委員会
- ・環境委員会
- ・広報委員会

【お申し込み・お問い合わせ】

菅中学校区地域教育会議アドレス【chiiki214@yahoo.co.jp】
または【090-2630-1771（議長：羽鳥）】へ
お電話もしくはSMS（ショートメッセージ）にて、ご連絡ください。



【chiiki214@yahoo.co.jp】